

RIETI中国WTO加盟20周年セミナー プレゼンテーション資料

2022年5月27日

「中国とWTO 加盟20周年を振り返る」

加茂 具樹

中国の制度性話語権の提起と その展開

中国とWTO 加盟20周年を振り返る

2022年5月27日

加茂具樹(慶應義塾大学)

報告の内容

- 本報告をつうじて「中国はどの様に国際社会と関わろうとしているのか」を考える手掛かりを得る。
- 中国と国際社会の相互作用は、これからの国際政治、経済、軍事、そしてグローバルガバナンスの規範の形成に影響を与える。
- 習近平指導部が推進する「大国外交」。経済発展に必要な国際環境を形成するために何をするのか。
- 「制度性話語権」の強化。

(1) どこから来たのか (2) 動機と展開

制度性話語権はどこから来たのか

- グローバルな経済ガバナンスと公共財供給に積極的に参加し、グローバル経済ガバナンスにおけるわが国の制度性話語権を強化し、幅広い利益共同体を構築する
(2015年：第13次5カ年計画)
 - 易綱「積極参与全球經濟治理」
- 指導部は「制度性話語権」の強化をつうじて経済発展に資する国際環境を構築するという考え方
 - 国際秩序を形作る組織の政策決定と政策実施に対して影響力の行使を可能にするパワー
 - AとBの関係において、Aが直接に働きかけるのではなく、Bをそうさせざるを得ない方向へ進ませるパワー
 - 話語権（ディスコース・パワー）

制度性話語権はどこから来たのか

- 共産党第18期中央委員会第5回会議（2015年11月）
 - 党と国家の政策文書で「制度性話語権」を提起



- ① 共産党中央政治局第27回集団学習（2015年10月）
 - 世界政治はグローバルガバナンスの枠組みの転換点にある。新興国家と発展途上国にとってより公正で合理的なグローバルガバナンス体系にむけての変革
- ② 中央外事工作会議（2014年11月）
 - 多国間外交を推進し、グローバルガバナンス改革を推進し、我が国と広大な発展途上国の代表性と話語権の増大を促す。
- ③ 共産党中央政治局第12回集団学習（2013年12月）
 - 国際文化軟実力を高めるために、国際話語権を高める努力
- ④ 全国宣伝思想工作会議（2013年8月）

制度性話語権はどこから来たのか

- 胡錦濤指導部→習近平指導部に継承された概念
 - 「接軌」から「鋪軌」へ
- 共産党第17期中央委員会第6回会議（2011年10月）
 - 国際競争で主導権を把握するために必要な「文化軟實力」
- 第11回外交使節会議（2009年7月）
 - 「4つの力」の強化：「中国は政治面で一層に影響力を有し、経済面で一層競争力を持ち、イメージの面で一層の親和力を有し、道義面で更なる感化力を持つように努力する」
- 第10回外交使節会議（2004年8月）
 - 「4つの環境」の強化：「平和で安定した国際環境、善隣友好の近隣（周辺）環境、平等互惠の協力環境、客観的に親密な世論環境を形作るように奮闘する」

制度性話語権のその後

- 「発展は安全の基礎であり、安全は発展の条件」
 - 発展＋安全の重視：共産党中央国家安全委員会会議（2014年4月、2018年4月）国家安全工作座談会（2017年2月）
- 「制度性話語権」の提起の背後にある国際秩序観
 - 「世界秩序」と「国際秩序」：既存の「世界秩序」は中国を完全に受け入れていない（傅瑩）
- 既存の国際秩序は大きく流動している。これを好機として捉え、主導権を掌握し、経済発展に必要な安全の確保：制度性話語権の追求
- 「制度型開放」という概念の提起